

【第一種社会福祉事業】

＜平成19年度 瑞学園 事業計画＞

第一章 施設の概要

I. 設立趣意

知的に障害がある人の中には問題行動やパニックが頻発し、本人も周囲も悩まされ続けてしまうという方がいます。特にこの傾向は自閉症と呼ばれる人たちに顕著に見られます。これは彼らが言葉、言語の抽象概念を理解できないために起きるものです。

この言語認知障害児、者へのよりよき対応法として開発されたのがコロロ ET センターの「発達を促すプログラム（コロロメソッド）」です。

コロロ ET センターは社会福祉法人コロロ学舎の設立母体となった団体で、日本全国から自閉症やダウン症などの認知障害児が「発達を促すプログラム（コロロメソッド）」による療育を受けるために通ってきています。そのコロロ ET センターの療育を通じて幼児期から学童思春期までの指導法の大筋が大河の流れに例えて示され、一方、子供たち一人一人の発達を促すプログラムも提示されてきました。

このセンター設立から二十四年が過ぎ、親の高齢化を見据えた「成人のための実践機関をぜひ」という時の趨勢に応え誕生したのが瑞学園なのです。この瑞学園によって、幼児期から成人期までの言語認知障害児、者に対するトータルケアとしての実践モデルが整ったと言えます。瑞学園は、全国各地の家庭では母の手による、施設では指導員の手による「発達を促すプログラム（コロロメソッド）」を実践する発信地とやらなくてはなりません。

そのためにまず瑞学園は言語認知障害を持つ利用者さんに対し、「発達を促すプログラム（コロロメソッド）」による質の高いケアを保証し、心豊かに、地域の人たちと共生することのできる、開かれた施設を目指します。

瑞学園は、利用者が一人の人間として、個々の持つ能力、可能性を發揮しながら社会人として生活できる場を提供し、有意義な生きがいのある人生を過ごせるようにと考えています。そのために利用者の人生を「どのように暮らすか（主に生活について）」「どのように働くか（主に日中活動について）」「どのように楽しむか（主に余暇活動について）」「どのように健康を保つか（主に医療について）」という四つの視点から支えていきます。

日々の活動では頭と体を充分に使った作業生活課題プログラムを組み、規則正しく意欲的な生活が送れるように援助します。そして自分のことは出来るだけ自分で出来る自立した生活を楽しめるように支援していきます。

“よく働きます よく学びます よく楽しみます 輪になります” をモットーに！

II. 施設の基本理念

瑞学園の活動の根底には「一人として排除しない」という理念が存在しています。

このため、開設時の入所措置選考に際し、関係諸機関に、「問題行動のために施設または家庭での生活が本来あるべき姿に立ち戻せない苦境に置かれている度合いの大きい方から順にお引き受けしたい」と述べました。また、緊急一時保護事業でも、他の施設が受入れをためらうような方でも利用していただい

ます。

この理念を、絵空事でなく具現化するためには、関係者は並々ならぬ努力を強いられ、時には苦痛も伴います。しかし、それなくして理念の実現はありえないことも事実なのです。そして同時にこの理念が最後には私たちに「だれ一人排除させない」すべり止めの壁になって立ちほだかってくれるのです。

Ⅲ. 沿革

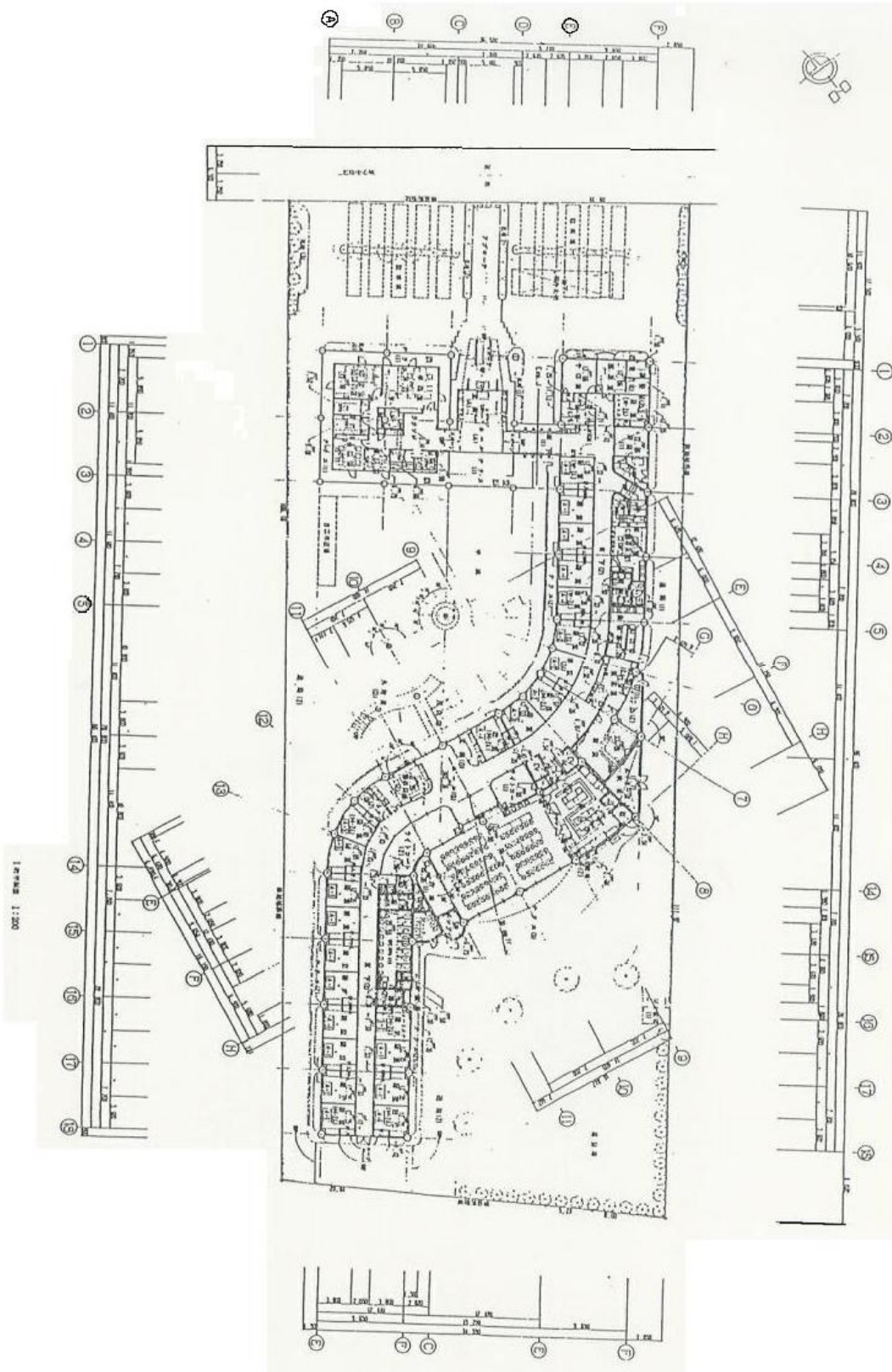
1991年(平成3年)	5月	コロロ学舎施設建設準備会発足
1997年(平成9年)	8月17日 12月14日	瑞学園用地取得確約 瑞学園地元自治会同意書を頂く
1998年(平成10年)	1月14日 7月16日 10月2日 11月9日	瑞穂町から意見書を頂く 瑞学園建設国庫補助、都補助許可内示 社会福祉法人「コロロ学舎」認可 瑞学園建築着工
1999年(平成11年)	9月25日 10月1日	瑞学園建築竣工 知的障害者入所更生施設 瑞学園開園
2000年(平成12年)	4月1日 6月 7月 8月 10月	瑞学園定員60名揃う 北海道旅行(2泊3日、小樽、札幌、寿都) 作業棟(邦栄館)竣工 夏キャンプ(5泊6日、八ヶ岳、及び山麓) 第1回瑞まつり開催
2001年(平成13年)	2月 5月 6月 8月 10月	東京都指導検査 第2回運動会開催 コース別旅行(アメリカ、北海道、郡山) 夏キャンプ 第2回瑞まつり開催 東京都指導検査
2002年(平成14年)	5月 6月 8月 10月	第3回運動会開催 サイパン旅行 夏キャンプ 第3回瑞まつり開催
2003年(平成15年)	1月 5月 6月 7月 8月 10月	アンリミテッドコンサート舞台発表開始 第4回運動会開催 ケアンズ旅行 東京都指導検査 夏キャンプ 第4回瑞まつり開催
2004年(平成16年)	5月 6月 8月 10月 12月	第5回運動会開催 沖縄旅行 夏キャンプ 第5回瑞まつり ランチクルーズ(クリスマス会)

2005年(平成17年)	5月 6月 8月 10月 12月	第6回運動会開催 熊本旅行 夏キャンプ 第1回青桃祭 (瑞学園・そうせい学苑合同祭) 第7回クリスマス会 (立川グランドホテルにて)
2006年(平成18年)	1月 2月 5月 6月 8月 10月 11月 12月	中国雑技団鑑賞会 (瑞穂町スカイホールにて) <作業工賃還元・地域貢献行事> 利用契約更新 第7回運動会開催 コース別旅行(宮古島、長崎、房総) 夏キャンプ 第2回青桃祭 東京都実地指導 忘年会

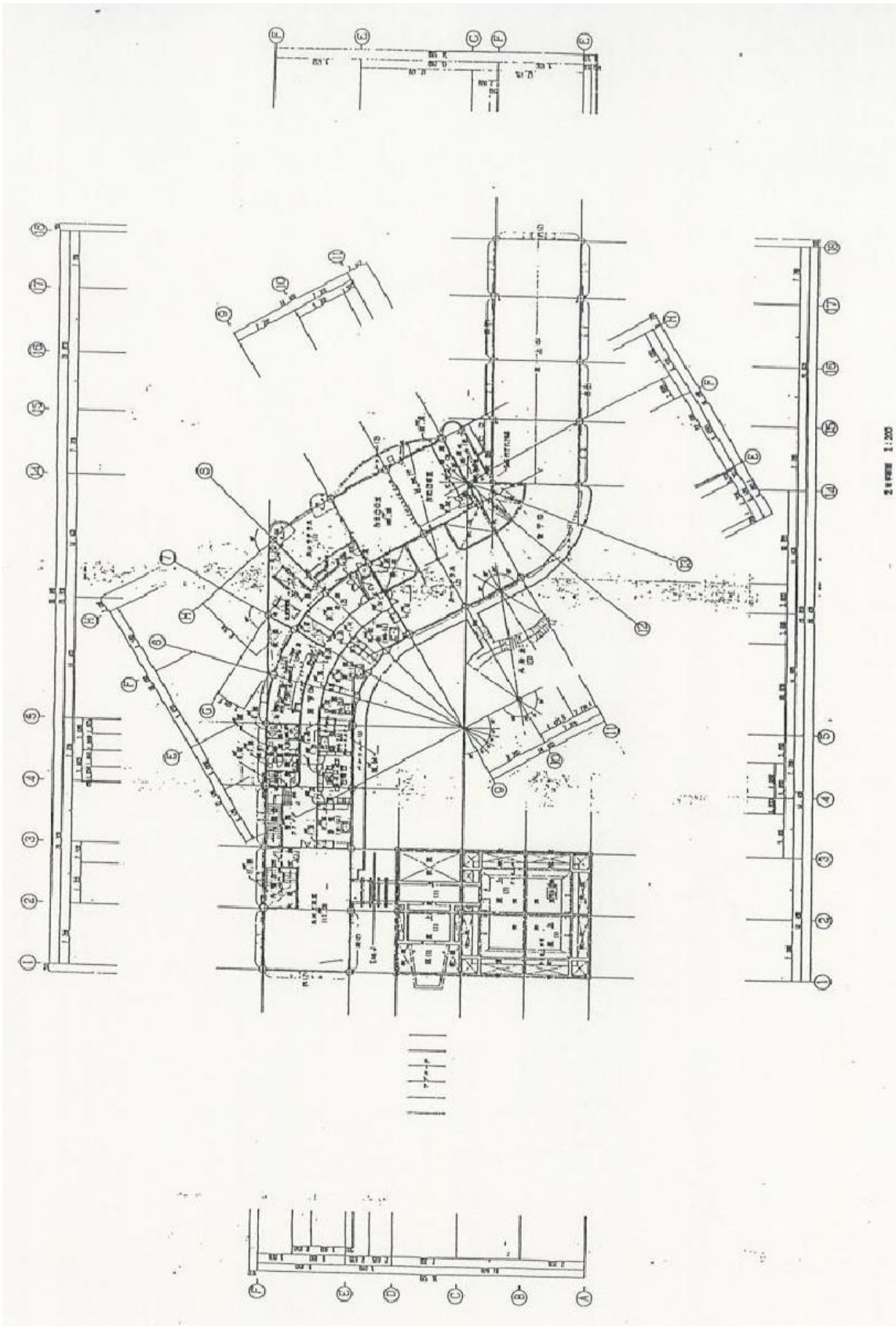
IV. 施設の概要

設置主体 社会福祉法人 コロロ学舎
種 別 知的障害者入所更生施設
入所定員 60名、他に緊急一時保護(ショートステイ)を8名併設
規 模 構 造 鉄筋コンクリート2階建て
敷地面積 4,761㎡(約1,500坪)
建物面積 1,866㎡(約600坪)
理事長 石井 聖
園 長 杉浦 章一
職 員 生活支援員、看護師、栄養士、事務員、嘱託医

1F平面図



2F平面図



第二章 療育方針

I. トレーニングプログラムを基本に据えた施設生活

瑞学園では、強度行動障害を持つと言われる自閉症やダウン症と呼ばれる方たちの基本障害を脳の器質的障害に起因する言語認知障害であると捉えています。故に脳を活性化し、その発達を促す適切な刺激を与えることが療育の基本方針です。

「刺激」とは、視覚や聴覚、触覚などから入る情報の全てを意味します。つまり、目の前に課せられた課題とその達成を促す言葉かけや指さしによるプロンプトや瑞学園という環境など、利用者に与える情報の全てを総称して「刺激」といいます。療育においては、利用者が受信する「刺激」の全てが脳の活性化のために適切なものか確かめなければなりません。

言語認知に障害のある利用者が一人の社会人として充実した生活を送ることを目指し、日々の療育に取り組みます。そのためには作業活動のみならず生活場面にも利用者の個々の能力・可能性を最大限発揮できるような支援が必要です。故に生活、作業の両場面は、利用者の力を引き出すための重要なトレーニングの場であると瑞学園では捉えています。加えて、地域社会への進出を目指しています。建物内にとどまらず公共の交通機関、公共の施設を利用した外出や旅行にもトレーニングプログラムは組み込まれています。

作業活動と生活場面を大きな柱とし、そこに適宜「発達を促すプログラム(コロロメソッド)」の根幹を成すトレーニングプログラムを組み込みます。基本は、歩行トレーニング、言語概念学習、そしてダイナミック・リズム(DR)です。

これらのプログラムによって、本人能力を高めることが地域生活移行にもつながると考えています。

※ 「歩行トレーニング」

言語認知障害者の多くは、「一応は歩いている、つま先で歩いている、周期的に飛び跳ねたりしてしまふ」ことがあります。これは乳児期の原始反射・原始運動(脳幹レベルの活動)の残存です。

このような反射的行動は脳幹(生命維持などの基本的な働きをもつ)で統合され、上位の大脳皮質(視覚、聴覚、言語などの各野)が働くことによって抑制されます。この大脳皮質の働きが弱いと反射活動が顕著に現れてしまいます。したがって目的行動(見る・聞く・判断する)は、原始反射・原始運動の残存を消去していくことができるのです。つまり行動、動作を大脳皮質の支配下におくように仕向けることができるのです。

ちゃんと歩くこと(自立歩行)を確立するには、つま先歩きを抑制しなければなりません。利用者の多くは、集団に合わせて歩く、上り坂を踏み込んで登る、下り坂を走らず、踏みしめて下りるなど目的的な歩行の練習の積み重ねが必要です。このとき集団は、目で見て判断しやすい(大脳皮質の働きを促す)最もわかりやすい行動の指標となります。初めての利用者も集団があることにより適応能力を伸ばすことが可能になります。したがって、これらのトレーニング(の観点)が利用者の問題行動の軽減にもつながります。それは、目的的に体を動かすことで不要な刺激に目が向き、余計な体の動きが出るということがなくなるからです。

※ 「言語概念学習」

自閉症者やダウン症者のコミュニケーションを困難にしている要因の一つには、言語概念の希薄さがあります。この言語概念力を伸ばすために「言語概念学習」という学習プログラムがあります。プログラムは能力差の様々な利用者に応じて目標や課題の設定ができるようになっています。頭を使う(考える)には作業活動だけでは限りがあります。この言語概念学習は「言葉のまだない」利用者でも取り組むことができ、その個人の課題を無限に発展させることができるのです。つまり脳を鍛えるトレーニングとして最適です。

学習の実践には、「目(または耳)から情報が入る⇒その情報を脳で処理する(考える)⇒答えを書く(または言う)」という流れができてきているかを重視しています。ですから高い指導力も求められます。

利用者は言語認知に障害がありますので、市販の教材だけではなかなか課題を進めることができません。課題の意味や答えをわかりやすいように手作りの教材を用意しています。

※ 「ダイナミック・リズム」

コロロETセンターの考案した集団運動音楽療法です。集団で音楽のリズムに乗り、様々な動作運動をします。集団行動の経験のない言語認知障害者でもすぐに約二時間の集団行動がとれるように考案されたプログラムです。障害者の途切れがちな行動を、規則正しいリズムに整え、自律動作(他者からの接触による受け身動作ではなく、自分の力で規則正しくする動作)を身につけることが狙いです。

DRの特徴は、集団で動くことです。大きな集団はその集団を構成する個人個人に「今自分は何をするべきか」を視覚的に分かりやすく伝えます。歩く、走る、止まるといった基本的な動きを、見て判断することにより、各々が自らコントロールしその簡単な動作をすることができるのです。このとき集団はなるべく大きく(100名でも良い)動きも単純なものが効果的です。

プログラム全体は動と静の繰り返して構成されます。プログラムが進むにつれ安定した行動リズム(途切れのない動作)に調整できるようになってきます。DRに組み込まれている「集会」では、全員着席をし、前に立つリーダーが提示する教材や動作を注視したり模倣したりします。

II. 利用者の見方

瑞学園の療育活動は利用者の能力を伸ばすためのトレーニングです。そこには利用者の行動のどこを見るのかという視点が欠かせません。以下、支援における基本的な見方を挙げていきます。

① 意識レベルは高く維持されているか。

脳に器質的障害のある言語認知障害者の意識の覚醒レベルは、常に上がったたり下がったりを繰り返しています。ほどよい意識レベルを保ちつづけるのは難しいのです。しかし、意識レベルの高くなったときを狙って的確な刺激を与え、それを繰り返して行っていけば、常に意識レベルを高く維持することにつながります。

反対に意識レベルの低いときに、いくら刺激(指示)を与えてもその意図は伝わらないばかりか、かえって問題行動を引き起こしてしまう場合もあります。従って、支援員は利用者の意識レベルの高低を常に見きわめながら療育に臨まなければなりません。

② ユアペースの獲得度はどうか。

ユアペースとは、「どれだけ相手の指示を聞き、周囲の動きに合わせられるか」ということです。普通に接していて特に問題がないという方は、ユアペース度が高いと言って良いでしょう。

これはよく言われる「知的に高い、低い」とか「障害が重い、軽い」といったこととは別の問題です。発語もなく、トレーニングを始めたばかりの方でも周囲の流れや指示にスムーズに従うことができるのであれば、ユアペース度は高いと言えます。逆に、お金の計算が出来、簡単な会話も出来るのに、ちょっと人から指示をされると苛ついてしまうような場合はユアペース度が低いと言わざるを得ません。

ユアペースの獲得度はトレーニングの進捗状況に大きな影響を与えます。支援員は利用者のユアペースの獲得度を常に意識する必要があります。

③ 目的行動の持続度・調整度

あるひとつの目的行動を途切れずに集中持続して取り組めるかという視点です。たとえば、着替えのときにズボンに片足を突っ込んだところで意識が途切れて、着替えが中断してしまう、作業でスコップを持ったまま手が止まってしまい、そこで畑作業が滞ってしまった、といった事態になっていないかということです。一定の目的動作を一定時間続けることができるか否かがポイントです。

また、静止動作(動かないでいること)を続けるということも持続度に含まれます。自分の体の動きを意識的に止める、一定時間正座が出来、立ってられる・手の余分な動きを止めていられる、というのが具体例です。

原始反射の残存が多く無意識的に体が動いてしまう方や常動行動の多い方にとっては、この静止動作の持続は動き続けること以上に難しいことかもしれません。動かないでいることも、動き続けることと同じように意識レベルを上げ、自らの体の動きを自然体に保つべく調整しなければならないからです。しかし、これが出来ないと一定時間座りつづけることを必然的に要求される手先を使う細かい作業などが出来るようになりません。静止動作の持続も目的動作の持続と同様に大変重要なことなのです。

④ 言語概念の到達度

そして、最後に①～③までの視点を踏まえた上でことばの本来の力である抽象概念の形成に取り組みます。課題に向かう基本姿勢を整えて言語概念学習をスタートすると、課題の進み具合がスムーズになります。

また、支援員は利用者の言語概念の到達度を正確に把握していなければなりません。それさえ出来ていれば、不必要な言葉かけが減り、常に適切なコミュニケーション手段を用いてこちらの意図することを利用者へ伝えることが出来るようになります。つまり、より適切な刺激を利用者に与えることが出来るようになるわけです。

Ⅲ. プログラムの法則(順序)

瑞学園の生活を通じてのトレーニングは、コロロETセンターの「発達を促すプログラム(コロロメソッド)」に基づいて行われています。プログラムは、一定の法則(順序)に則って進められるものです。その法則(順序)を次に挙げていきましょう。

① 集団から個別へという順序

言語認知障害者は、特に自閉症の方に顕著ですが、母子関係という個別の人間関係を基盤とし集団理解へとつなげる発達の順序をふまないことのほうが多いものです。そのような方が適応力を身に付けるには、十分な集団行動トレーニングをした方が良いでしょう。利用者の個別の課題は、集団活動の中で十分に達成できるものです。そればかりでなく集団がモデルとして機能するのでかえって効果的でさえあります。障害がどんなに重くても、人間の本能に根ざした同化から感応を引き出すという順序を踏めば、集団参加は容易にできます。「発達を促すプログラム(コロロメソッド)」では、前述のDRによって、即座にこの集団行動の基礎(皆と一緒に歩く、走る、座る)を形成することが出来ます。

② 視覚刺激から聴覚刺激へという順序

言語認知障害者とコミュニケーションする場合は、視覚的手がかりを使用することが有効です。瑞学園でも、特にトレーニングの開始期は、積極的にあらゆる場面で視覚刺激を用います。しかし、視覚刺激はそれのみに頼るのではなく、音声言語を主とした聴覚刺激への反応を形成するための手段という位置付けにあります。

③ 文字からことばへという順序

言語認知障害者にとってことばは、最も分かりにくい刺激です。しかし、そのことが発語指導の放棄となつてはならないと考えます。特に日本語の「かな」の一字一音という特性は他の言語に比べ分かりやすく、発語の可能性が高いと言えます。「文字」という視覚的手がかりを早期に、しかも聴覚刺激より先に用いて発語に到達させた例はコロロETセンターの療育活動で多くあります。このような事例からも有効性は確かなものと思われれます。瑞学園の療育において「ことば」の使用の可否は、社会適応上極めて重要な意味を持つと思われれます。今後もより積極的に言語概念学習に取り組むべきでしょう。

④ パターン作り→パターン壊し→安定期(パターン作り)→パターン壊し→

言語認知障害者の行動は、良いことも悪いこともパターン化しやすいものです。この特徴を活用し、トレーニング開始の初期の段階では、良い行動だけが生起するよう刺激を統制して、パターンを作るように心掛けます。完全にパターン化したら、次は刺激の統制を緩めるか、または刺激を少し変えて、同じ行動が生起するように仕向けていきます。

この方法は言語概念学習ではもちろんのこと、日常生活支援でも、作業支援でも常に用いられます。特に耐性力(変化への適応力)を養成するための耐性トレーニングに於いては重要です。不快な刺激を段階的に

与えていくことが、利用者の耐性力をつけることになります。普通の生活というものは、何らかの形でハプニングやアクシデントが起こるものです。いつもとは違う部屋で寝ることになったり、食事の部屋が変更になったりすることが時々起こるのが普通の生活というものです。利用者にとってそうした突然の出来事であっても落ち着いて適応できるようにすることが目標になります。そのため瑞学園での良いパターンにも常にトレーニングを意図したパターンの変更が重要になります。逆に、良いパターン行動を獲得しているからこそ、積極的な新しいパターンを組み込んでいくことが必要になるのです。故に瑞学園では、様々な活動場面でパターン崩しをしています。

IV. 目標設定と評価

瑞学園の療育活動は、脳に適切な刺激を与えながら、利用者の持っている能力・可能性を最大限引き出すことを目的として行われています。それは言い換えれば、何らかの形で遅れの見られる言語認知障害者の発達を、生涯を通じて促していくことを目的としていると言っても良いでしょう。

コロロの「発達を促すプログラム(コロロメソッド)」では、この発達の基準を脳の階層構造上の活動水準と大脳皮質の機能局在とを照らし合わせる形で設定しています。脳の活動水準では、言語中枢である大脳皮質レベルでの情報処理、判断、行動ができることが目標になります。機能局在はそれを完成させる形、すなわち分化を促し、体の各部位の機能を本来の目的通りに発揮できるようになることが目標になります。

次頁では、その評価基準を挙げていきます。

	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
状態像	(脳幹レベル) 原始反射・異常反射・意識の落ち込み(空にらみ)、常同行動、超速動作が頻発、それらを抑制されると、反発、猛抵抗。 当該動作(行動)の自覚意識がなく、行動は本能レベルで行われ、それが毎日の生活環境に否応なく定型化(パターン化)されている。 一般的には多動、パニック頻発、腫れ物に触るような対応をせざるを得ない。	(大脳辺縁系) I PA (大人の抑制系)の下で左記の反射が抑制される。意識の落ち込み後にくる目覚めの瞬間を狙って、少し意識レベルの高い行動をとることができる。 一般的には過剰反応を示すが、寡動になる場合も見受けられる。	(非言語大脳) 左記の反射を自分で概ね抑制できる。受け身行動を素直に受入れることができるようになってきている上、当該動作が自立している。いまだパターン認識の段階なので、特定のこだわり・パニックが残存する場合も少なくないが、耐性がよく身につけているので、並みの変更には順応できる。言葉がけだけで行動を始める、中止することができる。言語行動の主体は、受動的である。	(言語大脳) 反射は消退、当該動作の意味を言語的に理解している。他者の間違い動作を直すことができる。 恥ずかしい・負けたくない・人間皆同じ・葛藤などの情操概念を言語化し、表現できる。 自己が確立され、行動の主体は言語による。
只登と手の分化 (摂食)	ごはん粒を数粒ずつ食べる(吸いつき反射)、人が適量口に入れようとすると抵抗する。無理に入れても吐く、時に反す。離乳期の反射がそのままの状態で続いている。そうした食べ方で大食いも見ることができ、食・非食物の区別がつかない。	I PAにより適量口に入れることができ、どうにか飲み込める。だが、反射的に舌で押し出しそうになる。飲み込む力が弱い。時に左手が味覚を代用してしまうので、口と手の分化を促すには、この左手の動きを止めることが必要。	お概ね自分で適量を口に入れ、リズムよくかんで食べることができる。固い物、クセのあるものでも食べることができる。正しい食事動作が確立。満腹感を知る。非食物は口にしない。 初期では、ご飯とおかずが一緒にかめない。	相手(周囲)のペースや時間を意識して食べることができる。食事の意味がわかっている。 好き嫌いもでてくるが、それは舌触りによるものではなく、味覚への知的好みによるものである。
足の独立 (自立歩行)	つま先歩き、ぴよんぴよん跳び頻発、目に入ったものへ突進、それらの反射を制止されると反発、座り込み、抵抗。長距離(目的地)歩行が極めて困難。平坦地でも両手でバランスをとりながら歩くのは、手足の未分化を示している。	I PAにより左記の反射が抑制され、集団感応により目的地まで歩くことができるが、歩行意識は弱い。反射を認められながらの歩行は可能。時に、足指で物をつかもうとするが、足としての使用が確立すると、これは消退する。	反射が抑制されており、かかとから踏み出す(平坦地)。手放しでも相手(集団)の速さに合わせて歩ける。行き先(目的)をパターン認識しているが時に変更されるとパニックを起こす。長距離歩行が苦にならない。	反射が消退。 行き先や歩行の目的を言語的に理解している。長距離歩行ことや精神的苦痛を感じ始める。
見体の分化 (着席注視)	椅子からの立ち上がり(尻ピョン反射)が多く注目すべき刺激(教材)の注視持続ができず、刺激が視界に入った瞬間体が向かってしまう。目と体が未分化の状態、制止されると反発する。	後方からタイミングよく抑えることで尻ピョン反射が減少する。視覚教材の多用により、立ち歩きや追視→注視ができるようになる。目と体の動きが分化する。	尻ピョン反射が抑制されている。どのような場面、集団でも、着席持続ができる。場面場面で、注目すべき刺激の方に、注視集中することができる。目の動きに合わせて体幹上下肢をコントロールする事ができる。	反射の消退。 着席の意味、今なすべきこと(課題刺激)が理解されている。
体幹支持 (座位)	一定の姿勢を続けたままの座位が一分も続かない。さまざまな反射が頻発しているので、ひとつの型を強制されると反発する。	I PAの下で30分くらい一応座位姿勢が取れるが、足指などしきりに動いている。両手を膝の上に置いた状態が持続できない。	両手が膝の上に乗せられ正しい型での座位が続く。どの座位型をとっても同じように安定している。様々な反射が抑制されている。	座ることの意味を理解し、意識して座りつづけることができる。長時間続くとかえって苦痛を感じる。
体幹支持 (立位)	足裏反射(親指、内外反、つま先立ち)が頻発し、一分とその場か立てない。体幹支持のためには、下記のトレーニングに先がけ、直立二足歩行が必須になる。	台にのる、足型・砂のう固定などにより30分くらい立位の姿勢がとれる。両手に少し重いものを持つとより安定する。I PAも必要。	“気をつけ”の姿勢が身につけている。反射が抑制されている。パターン認識レベルで(簡単なコト(さ)がけ)大人が用をたす間一人で立って待っていることができる。	“気をつけ”の姿勢のまま、長時間人の話を聞いて、それを理解することができる。長時間にわたることによって、精神的苦痛を感じる場合もある。
左右分化 (手の使用)	左手右手の意識もなく、手を動かすのも意識的にはできない。常同行動が頻発し、手と、口目足とが未分化の状態。緊張性頸部反射が強く、両手の動きと、首、両足の動きが、反射的に連動するので、目的行動は本能的にしかできない。	左側にあるものは左手で、右側のもは右手でつかむなど、両手使いであるが、手の使用はあくぶん意識的になる。補助手を封じることによって、主用手の使用が促進される。まだ両手を意識して交互・別々に置いて使用することができない。	主用手が確定し、反対側を補助手として使っている。常同行動はほぼ抑制される。同時に、左右交互・別々の模倣や使用ができる。食事動作や書字動作が確立する。	両手の使用方法・分担を、言語的に理解できる。 利き手が確立した段階で矯正を行うと、吃音が生じる場合がある。
上下左右分化と態度 (着脱)	摂食反応が過敏なので反発が多く着脱介助時、その場に立ってられない。でたため反射(首・両手・両足がばらばらに動く)頻発、着せ替えが容易でない。	I PAにより反射が抑制され着せ替えが容易になる(受け身良好)。多少反射があるが、それが着脱パターンに組み込まれて、一応一人でできる。細かい動作は充分でない。	反射が抑制され、どのような状況でも一人で着替えができる。ボタンはめもできる。	清潔・保身・恥ずかしさなど着脱衣の意味を理解している。 他者の着脱介助ができる。
上下左右分化と態度 (歯磨き)	歯を磨かれることに対し、反発抵抗大。なかなか口を開かず、歯ブラシ、歯磨き粉、うがい水を、かんだり飲んだりする。	I PAにより磨いてもらうことができる。自分でも磨こうとするがパターンが悪いので虫歯予防にならない。	磨かれることに慣れてきたので(良好な受け身)正しいパターンを訓練されれば概ね正しく自分で磨ける。大人のチェックを素直に受けることができる。	きれいに磨けたかどうか、自分で判断できる。
見と上下左右の模倣 (模倣)	原始運動(常同行動)が多い。雑然とした環境に同化しているため、良い感応パターンが現れない。だから同化感応とは思われにくい。	環境を調整(刺激調整)することにより、良い感応パターンが出来上がる。粗大運動・本能動作は良くできる。細かい動きも部分的瞬間的には感応する。がそれらは手本と同時にされる。	手遊びなど多少複雑な手本でも、ほぼ模倣ができる。時間差(記憶)模倣もできる。サイン語程度の理解は可能であるがパターン認識(表相言語)である。	模倣の言語的、抽象の意味を理解できる。コミュニケーティブな動作を創造することができる。見立て(ごっこ)遊びができる

(主な療育課題)

(1) 摂食行動

『概ね何でも自分で適量を口に入れ、リズムよく噛んで食べられること』が食行動の基本形です。認知障害児の多くは偏食や摂食の問題を抱え、成長します。青年期においてもそれらが残存し、体の成長、消化器官の変化に伴い、摂食行動が常に健康状況に影響するケースが頻繁にみられます。また口腔状況も影響し、食行動に関する療育以外に、食べ物の形状を個人に合わせて提供するなどのケアも必要となっています。

基本の食行動には「食べ物」を「適量」口に入れ、「咀嚼」し「嚥下」する「リズム」が必要です。これを獲得することを目標に、食事支援を行っています。

支援方法は「全介助」「指示食」の二つに大きく分けられます。

「全介助」＝適量を口に入れる。咀嚼、嚥下のリズムを考慮し、食べ物の形状、量、口に入れる速度等を調節し、良いリズムでの食事を目指します。

「指示食」＝概ね咀嚼や嚥下のリズムを獲得した、あるいは既にリズムが整う方向にある方に関して、食べる量や品目を言葉かけ、指さしなどで伝え、食べ物を口に運ぶリズムを整えることを目指します。

(2) 自立歩行

正常な歩行動作は、「踵から着地してつま先から離れる」「歩幅が一定」「両手は両足に合わせて前後に振り一定のリズムを刻む」ものです。脳が正常に発達する過程で、新生児期に見られる原始的な反射行動(下記参照)を抑制し、それが自然と消去されることで正常な歩行動作は獲得されるものです。しかしながら、幼児期、児童期を経てもなお足裏の反射が抑制されず、その反射の為に、「多動」「走り出し」「飛び跳ね」「つま先歩き」という障害児・者特有の行動が顕著に見られるのです。

成人であってもこれらの現象は見受けられるものです。また、「歩行トレーニング」に取り組むことによる効果は成人期を迎えても絶大です。瑞学園では、「自立歩行」という基本動作の確立を目指しています。

新生児期に見られる原始反射には以下のようなものがあります。

- ① 緊張性頸反射(0～12ヶ月) 顔を向けた側の手足が伸び、反射側が屈曲する。
- ② 緊張性迷路反射(0～4ヶ月) 寝かせると手・足のどこかが曲がる。または動いてしまう。
- ③ モロー反射(0～6ヶ月) びっくりした時に両手足が伸びる。
- ④ 首の立ち直り反応(1～6ヶ月) 頸部が体幹に合わせて立ち直ろうとする反射。
- ⑤ 舌の反応 おっぱいを吸うときの舌の動き。

(3) 着席注視

原始反射の残存は、一定の場所に立つ、座るといった静止動作を困難にします。本人が意図していなくても、この反射の為に「椅子に座ってられない、直ぐに立ち上がってしまう」。また、その頻繁な反射の為に一定の方向に一定時間顔を向ける、あるいは目を向けることができない。つまり「見るべき物(教材、人など)に注目できない」といった現象を生じさせます。

着席、注視の持続力の向上を目指すことは、さまざまな能力を向上させるための第一歩でもあります。

(4) 体幹支持

体幹支持とは「背中をまっすぐに伸ばし、へその下に重心を定めて立って(座って)いられるということ、重心が自分の身体の中に入っている状態」を指します。(2)で記したように、足裏の反射などにより「1分、10秒と同じ場所に居ることができない」といった問題を抱える障害児・者にとって、重心保持能力の向上は「何かに取り組むこと」にとって必要になります。体幹支持によって前屈姿勢を防ぎ、顔が上がり、視座が安定します。逆を言えば、「物事に集中して取り組むことができない」のは、「体幹支持(重心保持)ができていない」、「視座が不安定である」ということになります。

作業や他者とのやり取り場面を想定すると、物や人と向き合う姿勢を保てることは「作業能力」「コミュニケーション能力」の向上につながります。

V. 個別支援計画

前々頁の評価基準をもとに、個々の状態像の把握、評価、目標設定を行っています。これは広義には「地域での」、狭義には「家庭での」適応生活を目指しています。瑞学園での療育の方向性で各個人の社会適応を目指している限り、「地域」「家庭」という視点は、支援の中に必要不可欠となります。

瑞学園でもより個別化した支援プログラムの明記(面接、契約)を行ったおり、平成19年度も、「個別支援計画」を作成し、個人の希望をふまえた支援(療育)方針を設定します。この方針に関しては、家族または支援者にも説明を行います。

瑞学園の療育の視点を踏まえて、「個別支援計画」の作成にあたっては、「フェイスシート」「アセスメントシート」の作成(三年に一度見直し)を行います。また、その計画の評価(モニタリング)に関しては年度末に行い、次年度に向けた「個別支援計画」を作成します。

※ 「フェイスシート」

個人の基本情報、健康状況、家族構成、生育暦、服薬情報を記載します。

※ 「アセスメントシート」

個人の希望、家族の意見等を記載し支援の方向性を分りやすくします。

「コミュニケーションの状況」「家族、家庭での状況」「できること、得意なこと」「苦手なこと」「問題行動」「安全管理事故防止上の留意点」などの項目について支援員が調査し、記載します。

※ 「個別支援計画」

「フェイスシート」「アセスメントシート」をもとにケース会議を開催し、個別支援計画を作成します。

個別支援計画は「本人の能力向上のために」「作業能力の向上のために」「社会資源の活用のために」「安全管理・事故防止上の留意点」の4項目についてまとめ記載します。個々の能力、状況に応じて地域生活移行も視野に入れて記載します。

※ 「評価(モニタリング)」

年度末(1月、2月)に個別支援計画の評価を行います。評価は、「利用者本人の能力について」と「支援の方向性はあっていたか」の2点について、各項目ごとに評価します。評価にあたっては、次年度の支援の方向性を決め、次年度の「個別支援計画」の作成につなげます。

VI. 記録と保存

利用者の現在の状況を把握し、健康で豊かな生活を送るために、また生活、作業を通してより効果的なトレーニングを進めるためにも客観的な記録を残しておくことは非常に重要な意味があります。

現在、瑞学園では2種類の日誌(生活、作業)と宿直者が夜間帯の様子を記録する宿直日誌があります。また月間の生活、作業目標を記載し、その状況を記録するケース記録と言語概念学習の記録を残す学習の記録があります。

(1)作業支援日誌

A～D組それぞれで記録する。その日利用者がどの作業を行ったのかが分かるように活動プログラムとその際の利用者とスタッフの配置を記入する。配置を記入することは限られた数のスタッフで作業が円滑に流れ、かつトレーニング効果を上げるためにスタッフが全体把握の目を養うためにも意味がある。

(2)生活支援日誌

1～3組それぞれで記入する。健康面(体調や排泄、睡眠、食事など)の客観的な記録と支援に関する記録を記入する。

支援に関する記録は、良い反応と望ましくない反応それぞれについて記録することとし、利用者の状態とともに、それに対しどう対応したかとその対応の結果を記入する。つまり、利用者にとってどのような刺激を与え、その結果どんな反応があったかを記録していくわけである。その記録を基に次回より良い対応が出来るように記録されていることが望ましい。

(3)宿直日誌

夜間帯の記録を毎日記録していく。余暇活動を含めた入浴時記録と睡眠時の様子を主に記録していく。余暇の記録はゆとりの時間としても余暇活動の時間をより豊かにするために必要なものである。宿直日誌は、これを読むことで翌日の勤務者が業務の留意点を把握することができ、スムーズに業務を開始できるような形で記録する。

(4)ケース記録

毎月一回、目標を設定し、それに関することを中心に記録していく。家族の方に瑞学園の様子を生き生きと伝えていくためにも、利用者の状態や様子を正確に残すようにしていく。

(5)学習の記録

その日の学習の記録を客観的に、かつ次回の学習の指針となるような形で記録していく。学習そのものの記録はもちろんのこと、その時の利用者の状態や反省点なども残し、総括的に利用者の様子が浮かび上がるような形で記録する。

これらの記録は、記録のしやすさ見易さを考慮に入れ、常により良いあり方が検討されるべきのものです。また、法則性のある形で整理と保存がなされなければなりません。

第三章 支援方針

I. 食事

食行動に問題を持って入所した利用者も、正しい食行動の形成を目指して介助・指導を行ってきたことで、ほぼ全員の利用者が給食から必要な栄養を摂取できている。

利用者の健康管理を常時保持出来るよう、昨年度同様に以下については引き続き行っていく。

- 咀嚼を促すためにきゅうりなどの補助食を用意する。
- 嘱託医・看護師と相談して、必要な利用者にダイエット食・おかわり食・きざみ食を用意する。
- 急な体調変化に合わせた食事を用意する。
- 毎日3食の残菜調査を行い、摂取量を把握する。

楽しみや団欒、季節感を味わうことを伝えられるように、以下の取り組みを実施する。

- 誕生会として、四季の特徴があるお楽しみ弁当を味わう。
- 選択メニューを取り入れる。
- 寿司の日またはうなぎの日、外食などを取り入れる。
- 年1回、嗜好調査を行い利用者の嗜好を考慮した献立作成に努める。

栄養士・調理員も、支援員と共に利用者支援を担っていることを認識し、利用者への接し方に配慮する。利用者が作って頂いた人への感謝の気持ちを持てるように支援する。

今年度も男性・女性・ダイエット食の摂取エネルギーに合わせて献立内容を変え、全利用者に対応した献立作りをしていく。

利用者の食生活の特徴や給食献立などの共通の理解が持てるよう、月1回の健康会議を開催し、栄養士・看護師・支援員の意見交換を行う。

(1)正しい食行動・食事のマナー

- ア. 手洗いの徹底
- イ. 食前食後の挨拶
- ウ. 正しい咀嚼・嚥下、姿勢、箸・茶碗などの持ち方
- エ. 好き嫌いの改善

(2)待ち遠しく楽しい食事場面

- ア. 適温での食事提供
- イ. 季節の食材の使用、季節行事に合わせたメニュー
- ウ. 良き人間関係の場面作り

(3)家庭生活に活かせるお手伝い

- ア. 配膳
- イ. 下膳
- ウ. 食堂の清掃

Ⅱ. 保健衛生

利用者の健康保持と増進のために、衛生的な環境を作り疾病を予防するだけでなく、積極的な健康作りのための運動やレクリエーションなどを取り入れ、心身共にバランスの取れた生活が送れるよう、援助・指導する。

自分の意志や感情を表現できない利用者が殆どなので、職員は常に利用者の様子を観察、把握しておかなければならない。利用者は身の異常や気候の変化への対応、清潔の判断などが不十分であるので、職員は健康状態をチェックし、身体・環境の衛生に気を配り、指導・援助する。

(1)身体の清潔保持と保健衛生の習慣

- ア. 洗面指導
- イ. 歯磨き指導
- ウ. 手洗い指導
- エ. 入浴指導
- オ. トイレ指導
- カ. 散髪(1～2ヶ月に1回)
- キ. 身だしなみ(髭剃り・爪切りなど)

(2)衣類・寝具の清潔保持と調節

- ア. 着替え指導
- イ. 衣替え
- ウ. シーツ交換(週1回)
- エ. ふとん消毒・乾燥
- オ. 洗濯指導
- カ. 衣類・日用品の支給(年間支給計画書を作成)

(3)住空間の清潔保持と安全

ウォシュレット機能付きの便座の利用。

(4)健康状態の把握、疾病やケガの予防・早期発見

- ア. 定期健康診断(年2回)平成19年6月・平成19年11月頃の予定
- イ. 定期歯科検診・歯石除去(月1回)
- ウ. 身長・体重測定(月1回)
- エ. 嘱託医による診察の介助(月1回)
- オ. 排便・排尿チェック(毎日)
- カ. 基本的健康チェック(毎日)

(5)健康増進のためのプログラム

- ア. 歩行
- イ. 体操(ストレッチ・筋力トレーニング・柔軟体操など)
- ウ. 各種クラブ活動(マラソン・剣道・など)

Ⅲ. 医療

瑞学園は薬を服用している利用者が7割おり、薬の種類も多種にわたる。なかでも向精神薬が多いのも特徴である。看護師・支援員は服薬が正しく行われたかどうか、チェックを励行する。

状態が安定し、向精神薬や睡眠剤を減らすことができた利用者もいるので、今後も状態の安定が保持できるよう日々の生活リズムや、活動を整えていかなければならない。

自分の身体状況を自ら訴えることができる利用者は少ないので、常に状態を観察し、日頃の様子を医師・看護師と家庭に連絡を取り合い、適切な医療が速やかに受けられるよう配慮しなくてはならない。ケガや病気、その他健康を害する恐れのある事柄についても、早期発見・早期対応を心掛ける。またいざという時、治療をスムーズに受け入れられるよう、利用者個々の適応力アップも重要な課題である。

(1) 利用者の受診に関する目標

- ① いつもと違う場所(医務室や病院、治療室・検査室など)に入って、診察や治療を受けられる。
- ② 面識のない人(医師・看護師・検査技師など)に慣れる。
- ③ 治療行為を受け入れられる。
 - ア. 体に触られることを受け入れられる。
 - イ. 注射を受けられる。
 - ウ. 薬を飲む。
 - エ. 同じ状態を保持していただける。
 - ・椅子に座って待つことができる
 - ・ベッドで寝ていただける
 - ・点滴を受けられる
 - ・包帯・ギプスなどをしていただける
 - ・口を開けたままにしている

(2) 健康状態チェック事項

- ① 顔色(目つき・くちびる・表情)
- ② バイタルサイン(体温・脈・呼吸・血圧)
- ③ 食欲
- ④ 発疹
- ⑤ 排泄状況・回数
- ⑥ 動き方・姿勢・緊張度
- ⑦ 機嫌

利用者自身がクリアしていかなければならない問題を、激励・援助すると共に、家族と連携をとり、利用者の人権が守れるように配慮する。

医師や看護師など病院の職員に、利用者一人一人の様子や障害について理解してもらい、個々に応じた適切な医療行為を行って頂くようにする。

IV. 余暇

成人青年期の余暇とは、本来充実した仕事の上に成り立つものである。また、個人的な色彩が濃いものである。したがって、自分で趣味や特技を持っている利用者に対しては、作業以外の時間を個々の希望を受入れつつ、よりよく楽しめるように援助していくことが大切である。

自閉症の利用者に対し、単に自由時間と称して放任するのは、常同行動やこだわりを増長し、発達や生活を阻害する方向に向かいやすいことがある。よって、療育の視点で余暇活動獲得に向け、集団生活のルールの中、個別的・集団的に楽しめるよう援助していく。

(1) 年間計画（大行事）

- 5月 運動会
- 7月 ファミリー行事
- 8月 夏キャンプ
- 10月 青桃祭
- 11月 旅行会
- 12月 家族交流行事
- 2月 チャリティーコンサート

(2) 月間計画

- ① DR(ダイナミックリズム)
 - ② 登山、ハイキング
 - ③ 公共交通機関を利用した外出
 - ④ 季節行事（お花見、節分など）
 - ⑤ オプションレク（外食も含む）
 - ⑥ 地域交流行事
- ※外出行事に買い物の機会を設ける

(3) 週間計画

- ア. 平日午後5時以降の過ごし方
- ・ 音楽活動(楽器演奏・カラオケなど)
 - ・ 日記・手紙を書く・学習活動
 - ・ 製作活動(絵画・工作・手芸など)
 - ・ 鑑賞(テレビ・映画・ビデオ・テープ・CDなど)
 - ・ 運動(ストレッチ・柔軟体操・ダンスなど)
- イ. 休日の過ごし方
- ・ ハイキング・バスハイク ・地域散策
 - ・ 居室清掃
 - ・ 地域の行事などに参加
 - ・ 週末帰省(希望者)

ウ. クラブ活動

月に2回程度クラブ活動の日を設定し、利用者の希望や得意とするクラブに任意で参加できる。平成19年度も、マラソン部・茶道部・剣道部・音楽部を開催する。また、組がそれぞれ独自のクラブ活動を設定し、それぞれの目標にそって、誰でも参加できるクラブ活動を開催する。

V. 家族への援助

利用者が家族と良好な関係を作りつつ、成長できるよう援助する。家庭で行動障害を起こした経験を持つ方も多いので、利用者がいつでもどこでも誰とでも、良い状態で過ごせるようプログラムを組んで援助していく。

(1) 家族に学利用者活の状況を知ってもらう

利用者がどのように生活しているのかを、できる限り家族に知らせていくことが、家族とのつながりを深める上で重要と考える。

また、今年度も家族と一緒に参加する日帰り行事を開催し、より良い状態で交流を深められるようにする。

- ア. 家族の行事参加(年2回 運動会・青桃祭)
- イ. 家族交流行事(7月、12月)
- ウ. VTRを使った行事(旅行など) 報告会
- エ. 面接・面会・見学の随時受入れ
- オ. 生活状態が記載された「家庭連絡帳」

(2) 家族に障害に対する理解を深めてもらう

- ア. 「家庭連絡帳」の活用
- イ. 機関誌・お便り(瑞だより)などの配布物やホームページによる情報提供
- ウ. 講演会・交流行事などの開催
- エ. 面談(随時)
- オ. 相談・苦情の受け付け

(3) 帰省(帰宅)

家族との関係を維持するために、家族の希望により原則として作業のない、週末、年末年始、ゴールデンウィークなどに帰省を受け入れていく。

要望があれば個別の帰省プログラムを立てて家庭でも落ち着いて生活が送れるよう援助する。(有料での家族交流支援サービス)

VI. 事故防止

安全でわかりやすい環境作りが何より大切である。危険の回避の判断ができにくい人たちであることをふまえ、設備面はもとより支援する際にも、安全性の高い方法を常に考えて援助する。利用者自身も自分で危険から身を守ることを知り、安全に行動できるように指導しなければならない。防災訓練などを通して突発的な災害・事故に備える。

- (1) 防災訓練の実施(年4回) 消防署立会いの災害活動相互応援協定に基づく総合訓練、救急訓練、夜間想定訓練も実施する。
- (2) 安全確保システムの確立。
 - ア. 始業時のチェック
 - イ. 活動中のチェック
 - ウ. 危険物管理
 - エ. 環境整備
- (3) 消防・警察・地域住民との連携。

- (4) 車の整備・安全運転の励行。
- (5) 職員一人ひとりの危機回避に対する意識を高める。
 - ア・研修、打ち合わせの励行
 - イ・ヒヤリ、ハット報告書に適宜記載する
- (6) 利用者自身が安全な行動について理解できるように指導する。

VII. 緊急時の対応

- (1) 事故が起きた時
 - ア. 身体症状のチェックと救急対応
 - イ. 病院搬送
 - ウ. 事故状況の把握
 - エ. 他利用者の安全確保
 - オ. 連絡（学園本部・保護者）
- (2) 災害（地震・火事など）
 - ア. 集団をまとめる・点呼
 - イ. 安全地帯への避難誘導・点呼
 - ウ. 学園本部・家庭への連絡
- (3) 利用者が行方不明になった時
 - ア. 対策本部の設置
 - イ. 他利用者の安全確保
 - ウ. 捜索開始（危険度の高い地点から捜索する）
 - エ. 15分おきに本部に連絡し指示を請う
 - オ. 10分以上見つからない時は警察（駅）へ通報
 - カ. 見つかるまで探す、または待機
 - キ. 見つかったら警察（駅）へ連絡
- (4) 事故防止に関する申し合わせ事項
 - ① 利用者の頭の高さ以内に、角張ったものはないか（机・箱など）
 - ② 床上がつまずいたり、すべったりする状況になっていないか
 - ③ 落下物・倒れる危険はないか
 - ④ 凶器になりうるもの（尖ったもの・切れるもの・長いものなど）その他危険なもの（薬品など）が出ていないかまたは、手の届くところに収納していないか
 - ⑤ 壊れて修理が必要なものがそのままになっていないか
 - ⑥ 職員のポジションとその守備範囲の把握
 - ⑦ 職員間のコミュニケーションは目線か、または端的な言葉で行う
 - ⑧ 利用者と職員の動き方・位置を瞬間的に把握する

※緊急時対応マニュアル別紙 P1～P9 参照

VIII. 環境整備

利用者にとって瑞学園は生活の場であるという前提に立ち、快適でかつ成長を促す衣食住の環境を提供したい。できる限り一般家庭に近づけるよう努力することは、社会的自立を目指す上でも重要と考える。

園内が明るく清潔な生活の場所であるように、また利用者・職員ともに清潔感のある、社会人としてふさわ

しい振る舞いができるように心がける。

- (1) 一般的戸締り 危険物保管場所 個人情報保管場所以外の鍵はかけない。
 - (2) 殺風景にならないよう、インテリアに配慮する。
 - ア. 園内外とも花を飾り、季節感を感じられるようにする。
 - イ. 絵や装飾品など、利用者が作ったものも含め飾り付け、明るく楽しい雰囲気を作る。
 - (3) 衛生的でかつ明るく、開放的な環境を作る。
 - ウ. ガラス窓を多く取り入れた園内
 - エ. 利用者と職員と共に、園内外の清潔を心がける。
 - (4) 利用者に特にわかりやすい配置、動線、指示を心がける。
 - (5) スタッフの身だしなみを整え、マナーを守る。
 - (6) 利用者の身だしなみを整える。
- 衣類・日用品の支給計画を立て、過不足なく必要なものが揃っているようにする。

利用者の身辺自立度を高めることは言うまでもないが、「自立」を重視しすぎて、介助せず見苦しいままになってはいけない。トレーニングしつつ、最終的に身だしなみ・環境を整える介助をする。

IX. 地域交流

瑞学園が開所してから7年半になり、地域の中で様々な協力・援助をいただいている。しかしながら、まだまだ瑞学園がどういった施設なのかを多くの方々を知って頂くことは必要である。今後とも開かれた施設を目指し、積極的に地域社会との交流をすすめていく。

- (1) 地域の行事に積極的に参加する
- (2) 園内行事に地域の方々を招待する（青桃祭など）
- (3) 作業活動など(受注・発注)を通して地域経済との連携を図る
- (4) 地域交流室(学園2階)の貸し出しを随時行う
- (5) 見学者を受入れ、案内する
- (6) 必要に応じたボランティアの受入れ
- (7) 自らボランティア活動を行い地域社会に貢献する
- (8) ホームページの開設、公開
- (9) 啓蒙活動

利用者へのより良い支援を実現するためには、本人を取り巻く支援者（地域、家族等）のケア技術が必要である。多くの人に障害の理解を深めてもらい、療育の底上げを目指したい。

ア. 実習生の受入れ

イ. 研修会の開催

(10) 社会参加

利用者が生涯、学園の中だけで過ごすのではなく、大きな目標として基本的な生活習慣が獲得され、作業態度・意欲ができれば、積極的に社会参加し、地域で生活してもらいたい。そのため、個人の特性を活かせ、障害を理解し受入れてもらえるよう、援助していく。

ア. 職場の開拓

イ. 職種の発見と開拓

ウ. 居住スペースの探索

エ. 趣味や特技を活かせるコミュニケーションの場を探す

第四章 ルーティーン

I. 利用者日課

利用者にとって、瑞学園での生活は「日常の生活」そのものとなる。その生活が社会の活動と大きく異なるものであれば、いくらADL能力が高まったとしても、利用者が施設を出て地域社会に適応して生活していくのは難しくなる。

故に、学園での生活スケジュールはほぼ社会の活動に沿うように作られている。適切な時間に起床、就寝すること、日中に作業活動することに配慮してある。要するに、朝起きて、昼間成人らしく働き、夜はぐっすり眠るという点に気を配っているのである。

このスケジュールを通して、社会的にも、身体的にも自立を目指した利用者活の中で落ち着いた生活を営むことができるようにし、大きな目標として地域社会での生活を目指し支援していきたい。

(1) 方針

利用者の日課は以下の方針にそって立てられる

- ・ 一般社会の活動時間帯に沿っていること
- ・ 起床、就寝などが極端に早くなったり遅くなったりしないこと
- ・ 生活のリズムを規則正しく保つこと
- ・ 身体、精神の安定を図ること
- ・ 一日を通して生活の流れが円滑であること
- ・ 利用者にわかりやすい日課であること
- ・ 地域での生活（社会活動）を視野にいれてプログラムすること
- ・ 頭と体をよく使う活動であること

(2) 基本的な日課

- ・ 7：00～ 起床、着替え、洗顔
- ・ 7：45～ 朝食
- ・ 8：15～ 歯磨き、身支度（髭剃り、整髪、化粧、身だしなみ、体調チェックなど）
- ・ 9：30～ 作業活動開始（途中10分休憩）
- ・ 12：00～ 昼食、昼休み
- ・ 13：30～ 作業活動開始（途中15分休憩）
- ・ 16：30～ 作業終了、片付け
- ・ 17：00～ <女性>入浴、<男性>余暇時間、夕食準備
- ・ 18：00～ 夕食、歯磨き
- ・ 19：00～ <男性>入浴及び余暇時間、<女性>余暇時間
- ・ 21：00～ 就寝準備
- ・ 22：00～ 就寝

※男性、女性の入浴時間は随時変更する

Ⅱ. 週間予定

瑞学園では、生活が単一的にならないよう、生活に変化を与えることを心掛け、曜日ごとに違う活動ができるように計画を立てて利用者の指導にあたる。計画の中には、作業活動だけではなく身辺整理や健康管理、余暇活動等も含み、ゆとりがあり、かつ健康的、発展的な生活を送るために利用者の生活をサポートする。また、個人個人の能力や趣味なども重々考慮した上で計画を立てる。

(1)方針

週間計画は以下の方針に沿って立てられる。

- ・ 生活に変化を与え、意欲的な生活が送られるようにする。
- ・ 個人の能力を高めることができる。(地域生活を視野にいれる)
- ・ 利用者個々の健康を増進し、良い状態を維持する。
- ・ より多く楽しめるよう心掛ける。
- ・ 利用者個人の趣味、嗜好を考慮し、計画に反映させる。

(2)内容

①身辺整理、保健

身辺整理、保健に関する活動は以下の通り。

- ・ シーツ交換 (週一回)
- ・ 園内巡回清掃 (月～土)
- ・ トイレ掃除 (毎日)
- ・ 歯科治療 (週一回)
- ・ 居室一斉清掃 (週一回)
- ・ 浴室清掃 (週一回)
- ・ クラブ活動 (月二回)
- ・ 体調・排便チェック (毎日)

②余暇

余暇活動の内容は以下の通り。

- ・ 音楽鑑賞やビデオ鑑賞、書画など芸術的な活動。
- ・ ダンス、ストレッチ、マット運動、縄跳びなど体育的な活動。
- ・ 自由時間 (利用者の趣味に応じた活動の時間、読書、TV鑑賞)
- ・ バスレク (主に日曜日の余暇活動として)
- ・ ミニスポーツ大会 (主に日曜日の余暇活動として)
- ・ クラブ活動

※趣味について

余暇活動では、利用者の趣味を盛り込むように心掛ける。そのために毎年ケース会議、毎月の組会議にて情報収集を行ない余暇活動や自由時間の計画を立てる。

Ⅲ. 生活支援計画

生活組の編成は、スムーズな生活のリズムを作り、生活を充実させる上で必要である。また、利用者を分け隔てることなく、様々な人と共に生きていけるようにしたい。

したがって、障害の種類や程度などでグループ分けせず、利用者同士がそれぞれの能力を活かし、互いに助け合って良好な人間関係を築き、個々の生活能力をも向上するように組を編成する必要がある。

支援員は以上の目標を達成するために、集団の中で個々を活かす支援を工夫、研究していかなくてはならない。基本的に組の編成は、男女混合の3組編成とする。

(1)生活組編成

今年度の組編成は3組編成である。

ショートステイ利用者も各組に配属され、同様の活動を行う。

生活組は以下の点を原則として編成する。

- ・同性介助を原則とし、男女の利用者とスタッフをバランス良く振り分ける。
- ・集団行動の中で、個別的なケアが十分にできる人数と組員の構成を考える。
- ・集団としてまとまりやすく、組員同士の人間関係が良好に保たれる構成とする。
- ・状況（利用者及び支援員）に応じて柔軟に編成を見直す。

(2)個人生活目標の設定と評価

生活能力の支援では、個別支援計画を元に、毎月個々の生活目標を設定し、目標に応じた支援を行う。更に、一ヶ月ごとに評価、見直しをし、翌月の目標を設定する。

目標設定、評価は組担当スタッフがいき、上司のスーパーバイズを受け、療育技術の向上を図る。あわせて、一ヶ月の枠にとらわれることなく、利用者の状況に応じて目標を臨機応変に変更する。

Ⅳ. 作業支援計画

社会福祉法人コロロ学舎瑞学園は、コロロETセンターが開発した療育プログラム「コロロメソッドを取り入れた成人のための実践機関をぜひ」という、言語認知障害児（者）を持つ親からの強い切望により設立された治療教育を専門とする、知的障害者入所更生施設である。

「コロロメソッド」の根幹は、集団を活用した集団行動療法にあり、日常生活のあらゆる場面において、遺憾なく発揮するために、瑞学園は、次のように作業目標を設定し実践する。

- (1)集団を活用した作業支援（母体となる作業集団を構成し、活用すること）
- (2)見通しの持ちやすい作業種の導入。（誰でも取り組める作業を取り入れる）
- (3)個々の作業能力に応じた支援プログラムの作成と目標設定。（個々の発達段階を踏まえた上での、支援プログラムと目標設定）
- (4)評価は一ヶ月ごとに組リーダーを中心に各担当者間で行い、次期目標の設定に反映させる。
- (5)職員は利用者の作業能力が向上するように作業具、材料、工程など、工夫・研究・開発をしなければならない。

平成19年度も4編成とし、集団を活用した作業支援のなかでさらなる個々の作業能力・技術の向上を目指す。今年度は、作業範囲の拡大をねらい、作業メンバーを固定せず個々の状態に合わせて様々な作業に参加できるよう活動予定を立てていく。一方、基本に立ちかえり地域での自立した生活を目指し、反射の抑制、適応力、耐性力の向上のために、歩行トレーニングを中心とした行動トレーニングを各組積極的に行っていく。また、「コロロメソッド」の学習プログラムに沿った学習支援も個々に継続して行っていく。

①作業編成

基本的には4編成とし、個々の能力や性格などを考慮して決める。

作業A

メンバーは約20名で構成され、パネルボード(のりパネ)の袋詰め作業を主に行う。地元企業の内職の仕事を請け負っているため、地域社会との繋がりや強さと、仕事に対する重大さが問われる作業組である。利用者の社会的自立を視野にいれて取り組みたい。組の大目標として「不良品を無くす」「新作業の開発、確立、定着」の2つを掲げ取り組んでいく。

作業B

メンバーは約20名で構成され、畑仕事を主に行う。また組の大目標として「街クリーン隊となり街のゴミ拾いを行なう」を掲げ普段の歩行トレーニングの中にゴミ拾いと言う要素を加え、目と手を目的的に使う療育課題にしていく。また、それだけでなく街の美化にも貢献でき地域の人々に愛される集団になっていくことを目指す。その他にも昨年度と同様に学園内に無人販売所を設置して畑での収穫物や、ハーブの自主製品を販売する。

作業C・D

メンバーは約20名で構成され(その日の状況により適宜作業C、Dに分かれる)作業Cは洗濯作業、作業Dは掃除、学習を主に行う(学習には全組の利用者が定期的に参加する)。今年度も組の大目標として「地域での自立した生活、匠の技」を掲げ普段の作業の中に生活自立トレーニングの要素を織り交ぜていく、また清掃活動を中心として個々の得意分野の作業能力を匠の域まで伸ばしていきボランティア活動を通して地域に貢献することを目指す。

※各作業とも歩行トレーニングを中心とした行動トレーニングを積極的に行う。

②作業年間（月間）計画・目標

作業A（パネルボード製品化）

	作業内容	支援目標、留意点
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・各パート（袋入れ、チラシ入れ、セロテープ貼り、シール貼り）の作業の持続力をあげる（目的行動の持続） ・箱折り作業ができる人を増やす ・Tシャツ作りに参加できる人を増やす（日中作業の充実）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助器具を使ってシール貼りができる人を増やす ・箱折り作業ができる人を増やす ・Tシャツ作りに参加出来る人を増やす ・Tシャツの販売・展示ヶ所の拡大
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で正確にシール貼りができる人を増やす ・一人で箱折り作業ができる人を増やす ・Tシャツのプリント作業が出来る人を増やす
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなパネルの袋入れをできるひとを増やす ・型抜きができる人を増やす ・Tシャツのプリント作業を一人で行える人を増やす
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなパネルの袋入れを破かずにできるひとを増やす ・型抜きができる人を増やす ・Tシャツ作業を正確にできる人を増やす
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなパネルの袋入れを破かずにできる人を増やす ・1人で型抜きができる人を増やす ・正確にTシャツ作業の工程を行うことができる
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいパネルのセロテープ貼りができる人を増やす ・完成品の袋つめをできる人を増やす ・Tシャツを瑞まつりに出展する
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きいパネルのセロテープ貼りができる人を増やす ・完成品の袋つめをできる人を増やす ・瑞まつりでの評判をもとにTシャツに改良を加える ・地域の行事にTシャツを出展する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きいパネルのセロテープ貼りができる人を増やす ・1人で完成品の袋つめをできる人を増やす ・Tシャツ作業の流れ作業の一工程をできる人を増やす
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・シール、セロテープ、袋など無駄が出ないように作業する ・不良品0を目指す ・Tシャツの販売・展示ヶ所の拡大
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・決められたノルマを時間内に正確に終えることができる ・不良品0を目指す ・ミスなくTシャツ作業の流れ作業を行える人を増やす
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル作業 ・箱折り作業 ・Tシャツ作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・一ヶ月欠品0をめざす ・ミスなくTシャツ作業の流れ作業を行える人を増やす

※毎日の活動に歩行トレーニングを中心とした行動トレーニングを積極的に取り入れる。

作業B (畑、DR、街クリーン隊)

	作業内容	支援目標、留意点
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・畑の耕し ・畝作り、施肥 	<ul style="list-style-type: none"> ・スコップを正しく使う スコップの使い方のパターンニング ・ロープを張り、耕すところを視覚的に分かり易くして行う ・作業の持続力をつける (目的行動の持続)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・種蒔き ・苗植え 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示したところに種や苗を植えることができる (指示行動の獲得) ・蒔く、植えるべきところが視覚的に解るよう作業環境を工夫する
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草取り、雑草取り ・施肥 	<ul style="list-style-type: none"> ・苗と雑草の区別ができる ・ジョーロを使って均等に適量の水を撒くことができる。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫、雑草取り ・袋詰め 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハサミ、カゴなどの作業道具を正しく使い、指示した作物を収穫できる ・作物を傷めずに袋に詰めることができる ・ご家族に収穫した野菜を販売
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫、草取り ・袋詰め 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物を傷めずに、摘み取ることができる ・丁寧に袋詰め作業ができる ご家族に収穫した野菜を販売
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・耕し、畝作り ・種蒔き ・ハーブ製品作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕し作業の持続力を伸ばす ・ハーブ製品作りの流れ作業の一工程ができるようにする
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫 ・袋詰 ・ハーブ製品作り ・街クリーン隊 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助具を利用して全員が流れ作業の一工程をできるようになる ・着席の持続力のアップを目指し取り組む ・歩行リズムがついた所で、しっかりと静止 (待ち)、ゴミを拾う
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫 ・ハーブ製品作り ・街クリーン隊 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブ製品作りの持続力アップを目指す ・ゴミを拾いカゴに入れる一連の動作ができるように取り組む
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫 ・DR ・街クリーン隊 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャリティーコンサートを念頭においてDRの練習をおこなう ・ゴミを自ら拾ってカゴに入れられるように取り組む
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥、腐葉土作り ・DR ・街クリーン隊 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャリティーコンサート本番に向け模倣力、着席の持続、体幹支持など細かい点に気を配りながら活動に取り組む ・促しによりゴミを分別してカゴに入れられるよう取り組む
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・土作り ・街クリーン隊 	<ul style="list-style-type: none"> ・撒く・耕すという行程を正しく適切な速さで行なう ・ゴミ拾い場所の地域を広げる。挨拶をしっかりとできるようにする。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・耕し、畝作り、 ・苗植え ・街クリーン隊 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定範囲をより速く、正確に耕すことができる ・ゴミ拾い場所の地域を広げる。ゴミを分別してカゴに入れる

作業C (洗濯)

	作業内容	支援目標・留意点
4月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> タオル類、両端をそろえて綺麗にたたむ事ができる 靴下、タオル類を角ハンガーに干す事ができる
5月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> Tシャツ、トレーナーを肩に合わせて綺麗にたたむ事ができる 翌日の洋服を準備する事ができる (職員の見守りあり)
6月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯物のしわをしっかり伸ばして干す事ができる 翌日の洋服の準備を一人ですることが出来る
7月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> 汚れ物を綺麗に手洗いする事ができる 洗濯機を操作して洗濯をする事ができる (職員の見守りあり)
8月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> 援助を受けながら靴下の左右を合わせてたたむ事ができる 一人で洗濯機を操作して洗濯をする事ができる
9月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> 靴下の左右を合わせてたたむ事ができる 下着等の汚れ物の汚れを手洗いで落とす事ができる
10月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> 援助を受け種類別に区別して洗濯物をたたむ事ができる 衣替えを自分で行なう事ができる (パターニングする)
11月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> 種類別に区別して洗濯物をたたむ事ができる 針と糸を使って縫い物ができる
12月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> 援助を受けタンスの決められた場所に綺麗に洗濯物をしまう事ができる 針と糸を使って縫い物ができる
1月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> タンスの決められた場所に綺麗に洗濯物をしまう事ができる 洗濯物にアイロンをかける事ができる
2月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> タンスの決められた場所に綺麗に洗濯物をしまう事ができる Yシャツ等にもアイロンをかける事ができる
3月	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯 仕分け 乾燥機掃除 	<ul style="list-style-type: none"> 一人で一連の洗濯作業行程を行なう事ができる 実際にケアホームに体験入居し生活してみる

作業D (掃除・学習)

	作業内容	支援目標・留意点
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 (園内掃除) ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうきを正しく使ってゴミを集めることができる ・正しい姿勢で雑巾掛けをすることができる ・言葉や数の理解力を高める
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を正しく使って便器、風呂場、洗面所を磨くことができる ・言葉や数の理解力を高める
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・援助を受け隅々まで掃除機掛け、雑巾掛けができる ・言葉や数の理解力を高める
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・隅々まで掃除機掛け、雑巾掛けができる ・言葉や数の理解力を高める
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗剤を使い指摘された汚れを綺麗に磨くことができる ・言葉や数の理解力を高める
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗剤を使い自ら汚れた部分を綺麗に磨くことができる ・言葉や数の理解力を高める
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・残すことなく洗剤を綺麗に洗い流すことができる ・道具を使い水切りをすることができる ・言葉や数の理解力を高める
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・一連の掃除作業の行程を行なうことができる (職員の見守りあり) ・言葉や数の理解力を高める
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・一連の掃除作業行程を一人で行なうことができる ・言葉や数の理解力を高める
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 (ボランティア) ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した技術を活かし地域でボランティア活動を行なう ・言葉や数の理解力を高める
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 (ボランティア) ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した技術を活かし地域でボランティア活動を行なう ・言葉や数の理解力を高める
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 (ボランティア) ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した技術を活かし地域でボランティア活動を行なう ・言葉や数の理解力を高める

③作業週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土	日
作業A	午前	歩行	パネル作業 箱折り作業	パネル作業 箱折り作業	リネン交換 作業室掃除	パネル作業 箱折り作業	自室掃除	休み
	午後	パネル作業 箱折り作業 納品	パネル作業 箱折り作業	自主製品 納品 歩行	歩行 パネル作業	パネル作業 箱折り作業 納品	クラブ活動	
作業B	午前	歩行	歩行	歩行	歩行	地域交流室掃除	自室掃除	休み
	午後	畑作業	畑作業	畑作業	街クリーン隊	街クリーン隊	クラブ活動	
作業C・D	午前	洗濯 トイレ掃除 廊下掃除 階段掃除	洗濯 トイレ掃除 廊下掃除 階段掃除 学習	外トイレ 障・脱トイレ 廊下掃除 階段掃除	洗濯 トイレ掃除 廊下掃除 階段掃除	洗濯 トイレ掃除 廊下掃除 階段掃除	洗濯 トイレ掃除 廊下掃除 階段掃除	休み
	午後	仕分け 乾燥機 掃除 洗濯室 掃除 脱衣室 掃除 利用者玄関	仕分け 乾燥機 掃除 全廊下 掃除 学習	仕分け 乾燥機 掃除 トイレ 大掃除 (利用者トイレ)	仕分け 乾燥機 掃除 お風呂 掃除 脱衣室 掃除 トイレ補充	仕分け 乾燥機 掃除 全居室 クラブ活動	仕分け 乾燥機 掃除 地域交流室 布団倉庫 トイレ補充	

V. 行事計画

行事は利用者の楽しみのひとつでもある。日常の生活も大切であるが、季節や時に応じてイベントを盛り込むことにより、生活のアクセントとなり、意欲的な生活を生み出すことにつながる。瑞学園では、これらの行事をレクリエーション(お楽しみ)としてだけでなく、個々の能力の向上を目指すためのトレーニングとしても位置付けている。また、家族の方々、地域との交流の場としても重要な役割を担っている。様々な人と共に楽しむ場を提供できるように援助する。

①行事の種類と目的

(1)お楽しみ行事

目的

- ・生活に変化を与え、生活をより豊かなものにする
- ・集団で楽しむことができる
- ・新しい楽しみを見つける場をつくる
- ・日々の練習(トレーニング)の成果を試す場とする
- ・(家族の方にご出席いただく行事では)家族の方に練習(トレーニング)の成果を披露する機会をつくる
- ・ご家族、地域の方との交流、親睦を深める

(2)元気モリモリ行事

目的

- ・持久力、集中力、耐性を伸ばし、適応力を高める体力作り、健康増進を目指す
- ・力を出し切るにより、達成感、充実感を知る
- ・日々の練習(トレーニング)の成果を試す場とする
- ・生活に変化を与え、生活をより豊かなものにする
- ・(家族の方にご出席いただく行事では)家族の方に練習(トレーニング)の成果を披露する機会をつくる
- ・家族の方との交流、親睦を深める

(3)地域交流行事

目的

- ・地域の方々との交流親睦を深める
- ・地域の活動に貢献する
- ・地域・一般の方々ともスムーズに活動を共にできるようより安定した利用者状態を促す機会とする

②行事实施の方法

行事の内容は、以下のように決定され、また実施される。

- (1)行事の年間の計画を立てる
- (2)担当者を決定する
- (3)年間お楽しみ行事計画案を作成、行事の内容を決定する
- (4)各担当者が起案書、並びに予算案を作成する
- (5)行事準備
- (6)行事の実施
- (7)担当者が行事報告書を作成する

平成19年度 年間行事予定一覧表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
大行事		運動会		ファミリー行事	夏期キャンプ		青桃祭	旅行会	家族交流行事		コンサート チャリティー		
定例行事	花見									新年会初詣	節分	雑祭	
	合同DR 瑞そうせい		合同DR 瑞そうせい			合同DR 瑞そうせい		合同DR 瑞そうせい		合同DR 瑞そうせい			
		登山		登山			登山	かち歩き	登山	カップ フリーバーズ	登山	福祉マラソン	
			健康診断					予防接種 健康診断					
				避難訓練		避難訓練			避難訓練		避難訓練		
地域交流行事		狭山丘陵ウォーキング	瑞穂町一斉清掃		栗原町内会 納涼祭	瑞穂町防災訓練		産業まつり	カラオケ大会 瑞穂町社協	出初式	元狭山神社節分		
			福祉運動会					ふれあい祭り					
オプション				プール	プール	サーカス 鑑賞	遊園地		芸術鑑賞	温泉	水族館	温泉	
						果物狩り				遊園地			

第五章 入園者の状況

平成19年4月1日現在

I. 障害種別（重複する障害を含む）

	自閉症	精神発達遅滞	ダウン症	てんかん	脳性まひ	難聴	身体障害
男	42	49	1	12	2	1	2
女	9	11	1	4	0	0	0
計	51	60	2	16	2	1	2

II. 療育手帳判定別

	2度 東京都	3度 東京都	4度 東京都	A 千葉県	Ⓐ 千葉県	Ⓐ 埼玉県	計
男	35	6	4	1	1	2	49
女	8	3	0	0	0	0	11
計	43	9	4	1	1	2	60

III. 受給者証障害程度区分別

	A	B	C	計
男	45	4	0	49
女	10	1	0	11
計	55	5	0	60

IV. 入園経路

	児童施設 (過年齢児)	入所更生施設	家庭 (デイグループ等)	家庭 (ショートステイ等)	病院	通所施設	作業所	職業実習所	生活実習所	養護学校	専修学校	計
男	7	3	4	8	3	6	11	1	2	4	0	49
女	3	0	0	2	0	1	2	0	1	1	1	11
計	10	3	4	10	3	7	13	1	3	5	1	60

V. 地域別入所状況

実施機関名	東京都 23区部															小計	
	荒川区	板橋区	江戸川区	大田区	葛飾区	北区	江東区	渋谷区	新宿区	杉並区	墨田区	世田谷区	豊島区	中野区	練馬区		目黒区
男	1	1	1	0	2	1	2	2	1	6	1	1	2	1	3	1	26
女	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	2	2	8
計	1	1	1	1	2	1	2	2	2	7	1	2	2	1	5	3	35

実施機関名	東京都市町村部													都外			合計	
	昭島市	あきる野市	青梅市	国立市	国分寺市	小平市	西東京市	八王子市	羽村市	東村山市	日野市	町田市	瑞穂町	小計	千葉県	埼玉県		小計
男	2	1	2	2	1	1	2	2	1	3	1	0	1	19	2	2	4	49
女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	11
計	2	1	2	2	2	1	1	2	1	3	1	1	2	21	2	2	4	60

VI. 年齢別入所状況

年齢	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	20～29歳 小計
男	2	3	2	3	2	5	2	2	5	26
女	0	0	1	0	0	2	1	2	0	6
計	2	3	3	3	2	7	3	4	5	30

年齢	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	30～39歳 小計
男	3	2	2	3	3	1	1	0	15
女	0	0	1	0	0	1	0	1	3
計	3	2	3	3	3	2	1	1	18

年齢	41歳	42歳	44歳	46歳	47歳	53歳	61歳	40～60歳 小計	合計
男	4	1	1	0	1	0	1	8	49
女	0	0	0	1	0	1	0	2	11
計	4	1	1	1	1	1	1	10	60

男女別 平均年齢	男	30.76歳
	女	32.82歳
総平均年齢	31.13歳	